

## 交通安全だより第6号

### I. 6月の安全運転管理について

#### 1. 降雨時の安全運転の基本を知る

##### ～雨天時の運転について～

全国的に梅雨入りしましたが、これから台風シーズンが終わる10月頃までは雨の日が多くなります。そこで、雨が運転に与える影響と、雨天時に安全に走行するポイントを知っておきましょう。

##### ●雨が運転に与える影響●

- ①雨滴やガラスの曇りで、前方、後方、側方すべての視界が悪くなる。
- ②他車があげる水しぶきで、急に視界が悪くなる。
- ③路面が滑りやすくなり、ブレーキの利きが悪くなる。

##### ●雨天時に安全に走行するポイント●

- ①雨滴はワイパーで、曇りはデフロスターで取るようにしましょう。  
また、車内側のガラスが汚れていると曇りやすくなるため、曇り予防として日頃から車内側のガラスを磨いておきましょう。
- ②視界の悪化により、晴れの日には見えているものが見えなくなることを意識して、しっかり目視で安全を確認しましょう。
- ③自分だけでなく、周囲の運転者や歩行者等も視界が悪くなっていることを理解して、他者の安全行動に期待しないようにしましょう。
- ④水しぶきを浴びても、慌てずにハンドルをしっかり持って視界が回復するのを待ちましょう。また、前車が大型車であるなど、水しぶきを浴びやすい状況になっていないかこまめに周囲を確認し、危険を予測しておきましょう。
- ⑤スリップしないように、「急」がつく運転を避けましょう。また、晴れの日よりも車間距離を空けて速度を落として走行しましょう。



##### ～雨に備え車両の点検・整備をしておこう～

降雨時に安心して運転できるように、車の点検・整備を実施しておきましょう。特にタイヤとワイパーは念入りに確認しておく必要があります。タイヤは残り溝が十分残っているか確認して下さい。雨の日にすり減ったタイヤで運転していると、停止距離がのびて事故のリスクが高まります。摩耗が激しい場合は、早めに交換しておきましょう。ワイパーは動作を確認するとともに、拭きムラがないかチェックしましょう。ワイパーゴムを掃除して汚れを落とし、少しでも劣化が見られる場合は交換しておくのがベストです。また、撥水剤をフロントガラスに塗っておくだけでも、視界確保に繋がり事故防止に大きな効果が期待できます。

### II. 前車の動きを決めつけない

前車に追従している時、前車の動きを自分に都合のよいように考えてしまい、事故に至るケースがあります。運転中は常にリスクを頭に入れて、前車の動きに注意を払いましょう。

#### 右折した前車が横断歩道の手前で急停止

前車に追従して右折する際、漫然としていたり、横断歩行者に気づいた前車が急停止した場合に追突する危険があります。「前車は停止せず右折するだろう」と安易に考えないようにしてください。



#### ETCレーンで前車が急停止

ETCレーンを通過する際、「前車はこのまま通過するだろう」と思い込んでいると、開閉バーが開かず停止した前車に追突する危険があります。ETCレーン手前であらかじめ減速し、前車と十分な車間距離を取っておきましょう。



#### 駐車場の出入口で前車が道を譲ろうとして急停止

前車が駐車場の出入口に差し掛かった際、駐車場に出入りする車に道を譲ろうと急停止したことに気づくのが遅れると、前車に追突する危険があります。駐車場の出入口付近では、前車の急停止を予測しておきましょう。



#### 黄色信号に変わり、前車が急停止

前方の信号が黄色に変わった際、「前車はそのまま通過するだろう」と考えていると、急停止した前車に追突する危険があります。信号が黄色に変わった時に備えて、前車との車間距離を十分取るように心がけておきましょう。



### Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年6月某日 10時45分頃 天候：雨

◆事故の当事者

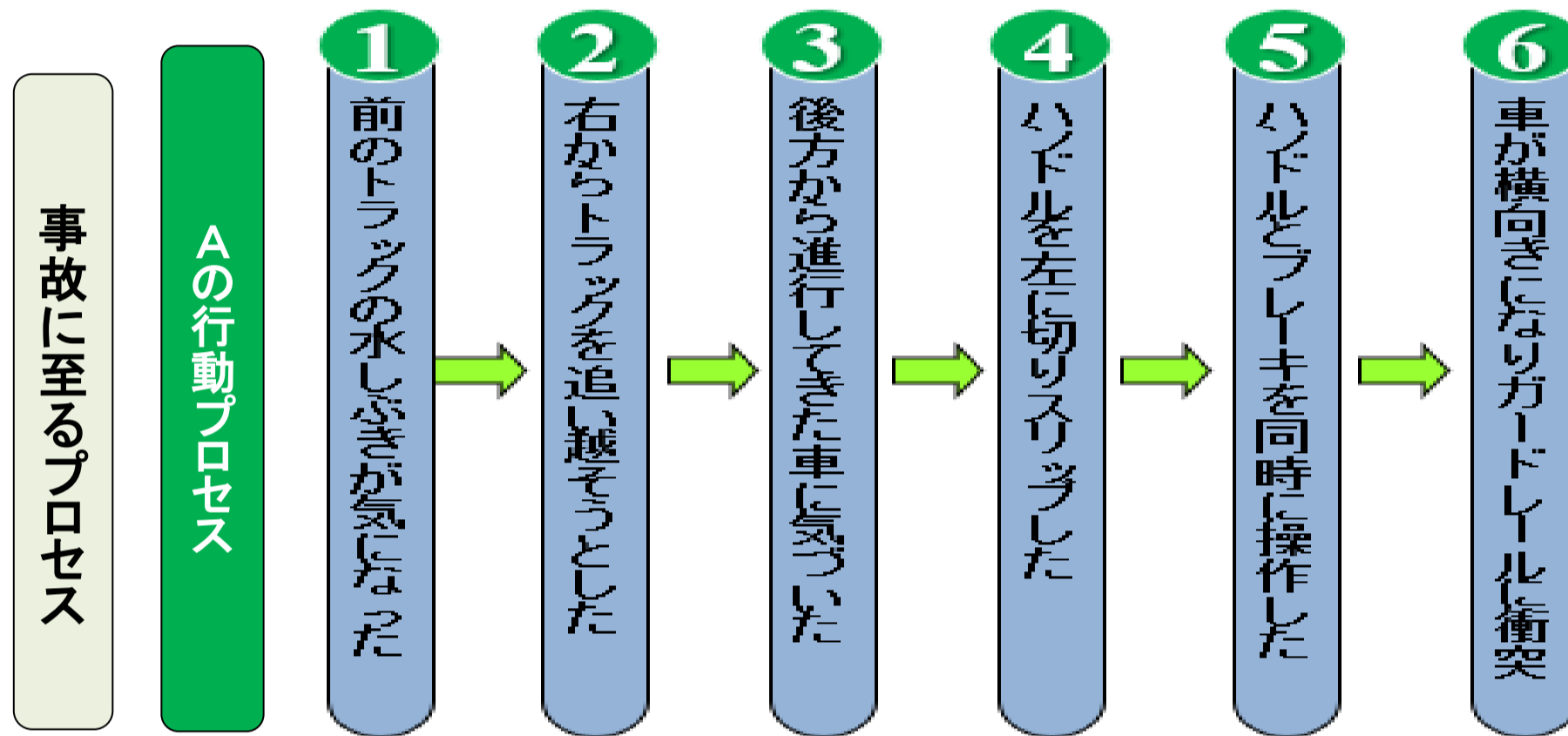
A / 男性34歳 普通乗用車運転歴13年 B / 男性53歳 貨物自動

◆事故の発生概要

Aさんは、建築資材を扱う商社に勤務しています。このところ会社の業績は好調で、張り切って仕事に励んでいました。

事故が起こった当日も、得意先と新規の取引について打合わせをする予定がありました。朝から強い雨が降っていましたが、「仕方がない」と思い、乗用車で出発し、片側2車線道路の走行車線を時速60キロでトラックに追従していました。

Aさんは、前のトラックが跳ね上げる水しぶきが気になり、右の車線に進路変更してトラックを追い越すことにしました。右のドアミラーを見たところ、水滴が付いていたため後方がよく見えませんでした。右にハンドルを切ったところ、後方から車が来ていることに気づき、慌ててハンドルを左に切ったのです。その途端、車がスリップして蛇行し始めたため、車両態勢を立て直そうとハンドルを切り、ブレーキを踏んだところ、車は横向きになり、そのままガードレールに衝突したのです。



**事故の原因と背後要因**

- ①雨天走行の危険（視界悪化、スリップ）を理解していなかった。
- ②路面が濡れているのに、スピードを落とさなかった。
- ③水滴のために、後方の状況を十分に確認できないまま、安易に進路を変更しようとした。
- ④慌ててハンドルとブレーキを同時に操作したため、車が横向きになり、コントロールできなくなった。

類似事故を起こさないために運転者の対策は

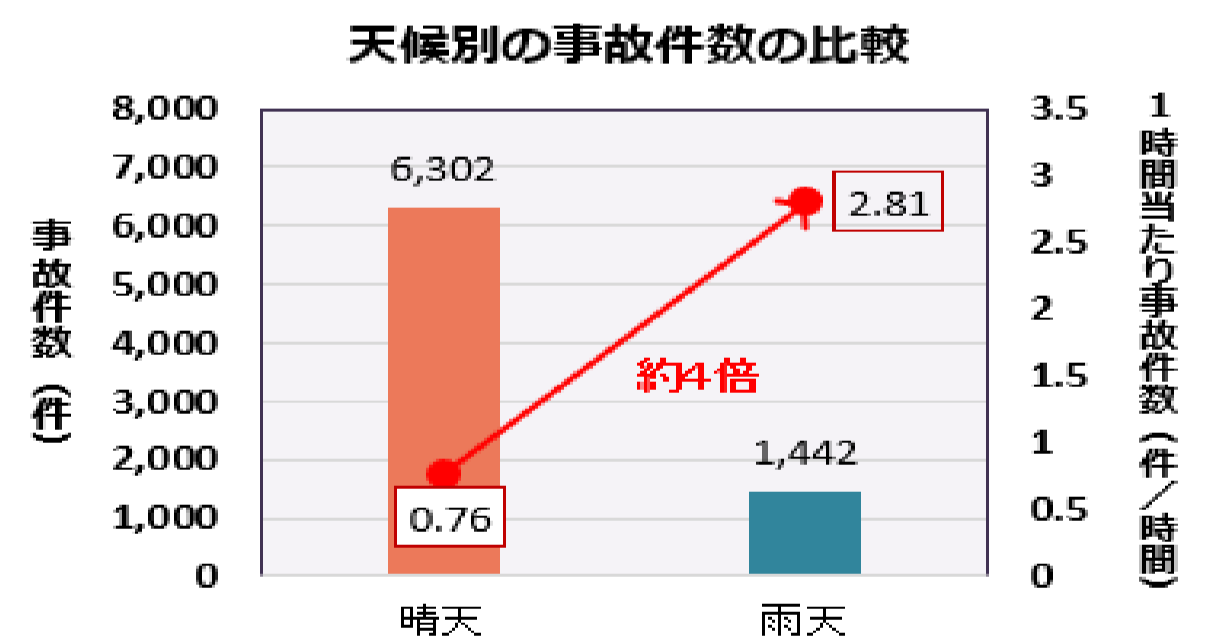
- 後方の安全が確認できない場合は進路変更しない**  
雨天時に視界が悪化しているときは、進路変更は行わない。やむを得ず進路変更する場合は、ミラーと目視での安全確認を徹底する。
- 雨天時は安全運転の基本に徹する**  
スリップ事故の多くは、スピードの出しすぎと急な運転操作によるもの。減速と車間距離の確保、急な運転操作の厳禁など、安全運転の基本に徹する。

**ワンポイントアドバイス** 雨天時は自損事故が多くなる

首都高速道路によると、令和3年の天気別・1時間当たり交通事故件数は雨天以外の0.76件に対し、雨天時は2.81件と約4倍も多く事故が発生している。

事故の特徴は、ガードレールや側壁などへの衝突が多く、施設接触事故の約7割が60km/h以上で発生している。

雨天時は、スリップからガードレール等への接触事故（自損事故）が起こりやすくなることを心得ておこう。



### Ⅳ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤中	どこで	一般道路
何をしている時に	交差点で左折し少し走行したところで救急車のサイレンが聞こえたため路肩に停車		
どうなった	救急車が通り過ぎたためウインカーをつけて発進しようとしたら、後ろに車が接近していてヒヤリとした		

以上